

# 水辺の 生物



## ボウズハゼ

ハゼ科ハゼ亜科ボウズハゼ属

写真提供および校閲：岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ



本産ボウズハゼの仲間は4属8種が知られ、このうちボウズハゼ属は沖縄など島しょ部にのみ生息するルリボウズハゼと、本州にも生息する本種のみが記録されている。本種は小笠原諸島、福島県・兵庫県日本海側～西表島などに分布する。

ボウズハゼはその名の由来となったお坊さんのような、前頭部が丸くふくらんだ独特の風貌で、目と口元を結ぶ黒線、分厚い上唇には3個の切れ込みがあることなどが特徴。灰褐色の体には脇腹の中央にV字型、その前後にこれと平行するように計10本の黒っぽい帯がある。この帯は成魚（12cmほど）では不鮮明となるが興奮すると再び鮮明になる。

産卵期は初夏で、大きな石の下面に幾層にも重なって産みつけられた卵をオスが守る。卵は他のハゼ類より非常に小さく、卵数は桁違いに多い。ふ化後、直ちに海に下りて冬を海で過ごす。2.5～3cmほどになった稚魚は春になると河口に現れ、体がしっかりしてくると長い帯状の群れになって川を遡上し始める。泳ぎは極めて敏捷だ。岩登りの名手で、滝や大岩などにぶつかると吸盤状になった口と腹びれを交互に岩に吸着させ、尺取虫のような動作で乗り越える。吸着力が非常に強く、水流のないオーバーハングした岩面でも吸い付いてぶら下がりながら這い登ってしまう。この習性から、水槽飼育では蓋をする配慮が必要という。

河川の上・中流域に生息し付着藻類をえさとする。えさを食べる時は岩面に吸着したまま口の内面を岩面にあて、上あごの歯で藻類をかき取り下唇に並んだ歯ですくい受けて食べる。岩面を強くこする上あごの歯は消耗が激しいので7～10日ごとに生え変わるのだという。

参考文献：『日本の淡水魚』1990年・山と溪谷社刊  
『日本のハゼ』2004年・平凡社刊